

## 研究科日誌 (2009年10月～2010年9月)

Chronology (Oct.2009 - Sep.2010)

### ●地域社会研究会研究報告発表会

#### 2009年度 第2回研究報告発表会

2009年11月14日(土) 13:00～ 上土手スクエアスペースA

- ・「開業準備はなぜ進まないか—考察・東北新幹線全線開通の課題と可能性—」  
櫛引素夫(1期生 地域政策研究講座)
- ・「岩木山信仰と領主権力」  
白石陸弥(6期生 地域文化研究講座)
- ・「都市祭礼参加団体の形態と意識の変化—青森県弘前市の弘前ねぶた祭りを事例として—」  
三浦俊一(6期生 地域政策研究講座)
- ・「街なかとそのマネジメントを考察する視座の獲得」  
工藤裕介(7期生 地域政策研究講座)

#### 2009年度 第4回研究報告発表会

2010年3月13日(土) 15:00～ コラボ弘大 地域社会研究科演習室

- ・産学官連携による地域活性化—青森県における低炭素社会の実現と地域活性化—  
ダイアナ・クラチュン(8期生 地域産業研究講座)
- ・津軽地域における音楽起業の可能性  
大坊民夫(1期生 地域産業研究講座)

#### 2010年度 第1回研究報告発表会

2010年5月22日(土) 15:00～ コラボ弘大 地域社会研究科演習室

- ・「ソーシャル・キャピタルを志向する地域イノベーション創出共同体形成事業  
—東北の地方大学における産学連携部門の試み—」  
野崎道哉(研究生)

#### 2010年度 第2回研究報告発表会

2010年6月26日(土) 14:00～ 弘前大学地域共同センター セミナー室

- ・「平安時代の火山噴火に関する人的動向の考古学的考察」  
丸山浩治(9期生 地域文化研究講座)
- ・「土木リテラシー促進に寄与する広報媒体活用の研究  
—「土木の絵本」と「土木偉人アニメーション映像」による展開—」  
緒方英樹(7期生 地域政策研究講座)

#### 2010年度 第3回研究報告発表会

2010年8月28日(土) 14:00～ コラボ弘大 地域社会研究科演習室

- ・「津軽の一級史料からみた幕末—金木屋日記を中心に—」

白石陸弥（6期生 地域文化研究講座）

## ●学会発表など

### 櫛引素夫（1期生 地域政策研究講座）

- ・学会発表

「東北新幹線・新青森開業への対応と課題—八戸開業との対比から—」

2009年10月3日 東北地理学会秋季学術大会発表（弘前大学）

2010年12月の新幹線開業に向けて、地元の準備態勢づくりの問題が、八戸開業時の検証の不在や、地域ビジョンの欠落に起因している可能性などについて考察。

- ・講演

2010年2月19日 あおもり経済デザイン会議パネルディスカッション（青森市アスパム）

開業後の産業振興に向けて、県内外とのコミュニケーション能力向上の必要性などを指摘

2010年9月1日 あおもりNPOサポートセンター「新しい公共担い手育成講座」

「記者の目からみた現在の青森県」新幹線開業対策、人口減少対策の現状と課題を考察。

- ・著書

「盛り上がり欠く青森の根深い問題」新青森開業をめぐり、新駅の分離などの実情を紹介。

『週刊東洋経済』『鉄道新世紀』p.83、2010年4月

「明暗が分かれる地方鉄道」青い森鉄道の厳しい経営予測などを紹介。

『週刊東洋経済』『鉄道新世紀』p.95、2010年4月

『「はやぶさ」登場・効果はどこまで」

新列車「E5系はやぶさ」の登場で、ムードが若干だが変わりつつある市内の様子を紹介。

『週刊東洋経済臨時増刊』p.43、2010年7月

### 工藤規会（6期生 地域政策研究講座） 発表時：川内規会

- ・学会発表

「初等教育における人権問題の扱いを考える

—新潟水俣病の経験を伝える普及啓発事業を通して—」

2009年10月31日、日本コミュニケーション学会 第10回東北支部研究大会（青森）

「医療通訳の社会的背景と課題—在日外国人と医療従事者をつなぐ働きとして」

2010年7月18日、日本ヒューマンケア心理学会、日本赤十字看護大学（東京）

「日本における医療通訳の現状と課題—外国人診療に関する調査から」

2010年9月2日、日本コミュニケーション学会九州支部大会、西南女学院大学（北九州）

・論文等

「注射時に不安をもたらすコミュニケーション」

学びなおしの静脈注射Column Smart Nurse Vol.11.No3, 10-38, メディカ出版, 2009

・講演 / セミナー

「人とのつながり～人脈を作るコミュニケーション～」

2009年11月12日 東青地域実践型支援事業 (アピオあおもり県男女共同参画センター)

「コミュニケーション講座」

2009年12月21日 アピオあおもりスキルアップセミナー

(青森県男女共同参画センター)

「伝えたいことが伝わらないのはなぜか—良好なコミュニケーションを保つために」

2010年2月6日 平成21年度青森県栄養士会研究教育協議会研修会

(大学コンソーシアム青森)

「高齢者を支え合うために必要とされるコミュニケーションとは」

2010年3月2日 平成21年度むつ市生活・介護支援サポーター養成事業

(むつ来さまい館)

「私たちのコミュニケーションに大切なことⅡ」

2010年3月14日 平成21年度青難聴福祉研修会 (青森市会館)

平成22年度 青森県手話通訳士養成研修

2010年4月18日 (青森県聴覚障害者情報センター)

「医療従事者として必要なコミュニケーションスキルとは」

2010年6月24日 青森県看護協会平成22年度新人研修 (県民福祉プラザ)

「ことばのしくみ」

2010年7月4日 平成22年度青森県手話通訳者養成研修

(青森県聴覚障害者情報センター)

「プリセプターとして知っておきたい現代のコミュニケーション傾向」

2010年7月31日 指導者対象コミュニケーションスキル研修会 (八戸市民病院)

「医療従事者が必要とされるコミュニケーション」

2010年9月4日 看護師対象コミュニケーションスキル研修会 (八戸市民病院)

三浦俊一 (6期生 地域政策研究講座)

・学会発表

「都市祭礼参加団体の現状と意識—弘前ねぶたまつり参加団体調査の分析結果から—」

2009年10月24日 日本都市学会2009年度大会 (名古屋市都市センター)

「都市祭礼の運営に関する考察—青森県津軽地方4都市のねぶた・ねぶた祭りを事例として」

2010年9月26日 東北都市学会2010年度大会 (弘前大学)

・論文

「弘前ねぶた祭り運行団体と子ども・学校との関わりの現状と意識」

弘前大学教育学部紀要 第102号、2009年、p 125-132

「都市祭礼参加団体の現状と意識—弘前ねぶたまつり参加団体調査の分析結果から—」

『日本都市学会年報』VOL.43、2009年、p 188-197

緒方英樹（7期生 地域政策研究講座）

・論文

「小・中学校の教育現場と土木の関係」月刊「土木施工」2009年10月

「一般社会の理解を促す土木コミュニケーション」月刊「土木施工」2010年1月

「若年層から促したい土木リテラシーの浸透」月刊「土木施工」2010年4月

「市民の土木リテラシーを促す土木リテラシーの役割」月刊「土木施工」2010年7月

「伝える側と受けとる側の視差あるいは非対称情報」月刊「土木施工」2010年10月

・講演

「台湾に尽くした土木技術者・八田與一が映画になった」

2009年10月1日 東京台湾の会 創立25周年記念講演（東京・練馬）

「八田來了的風吹著，地域資産跨過國境時—歴史資産が地域の垣根を越えるとき—」

2010年5月7日 2010国際文化資産日シンポジウム講演（in 台湾）

工藤裕介（7期生 地域政策研究講座）

・学会発表

「街なかマネジメントに関する試論—マネジメントの枠組み構築—」

2010年9月26日 東北都市学会2010年度大会（弘前大学）

西 敏郎（7期生 地域政策研究講座）

・講演

東北女子短期大学の夏期公開講座

2010年7月31日 「社会学ってこんな学問—メールが来ないとなぜ寂しいのか—」

小山内筆子（8期生 地域産業研究講座）

・学会発表

「機能性構音障害児の語音弁別訓練に用いるWeb教材の開発」

2009年11月29日 本産業技術教育学会第27回東北支部大会（弘前市総合学習センター）

「操作性を考慮した自閉症児向けタイムエイドの開発と利用事例」

2010年7月24日 電子情報通信学会教育工学研究会（弘前大学）

赤坂和雄 (9期生 地域産業研究講座)

・講演

Crosscultural Communication in Japan

September 3, 2009

Regis University, Colorado, USA

「出会いと三つの別れ」

2009年10月10日 青森市倫理法人会 (ホテル青森)

Round Table Discussion: Communication – Japanese Style

Educators' Day

Department of Schools, Pacific, Edgren High School, Misawa

October 10, 2009

「コミュニケーションの力を高める授業

—子供たちが自信を持ってコミュニケーションを取るための支援—

2009年10月30日 (札幌市立前田小学校)

「生きる」を考える

2009年11月14日 暖かい心がかようコミュニケーションを考える会

(青森県立保健大学)

“Listening Lights the Way: Similarities and Differences in Listening Among Countries”

International Listening Association (ILA)

Albuquerque, New Mexico, USA

March 26, 2010

「元気を招く笑いとコミュニケーション」

2010年6月6日 日本笑い学会北海道支部 (札幌市教育文化会館)

・著書

毎日新聞コラム「東北彩発見」連載

43回 青森の活性化—よそ者の視点も必要では(2009年9月9日)

44回 米コロラドスプリングズで見た光景—青森の絶景に思い重ね(2009年10月28日)

45回 米国の空港案内放送に思う—異国で日本のよさ発見(2009年12月16日)

46回 国によりあいまいな会話に注意—気楽に聞けない表現も(2010年2月10日)

47回 70代半ばの大学院生—「道草ダメ」考え直そう(2010年3月31日)

48回 自分の持つ心の言葉—「芸や技」で対話可能に(2010年5月19日)

49回 日本語教育を40年—「文化の法則」論理的に(2010年7月7日)

50回 一時停止標識が四つある交差点—一人に優しい町づくり(2010年8月11日)

●津軽地域づくり研究会

「稲わら焼きゼロ—それぞれの可能性—」研究報告会

2009年10月23日 弘前大学総合文化祭 (弘前大学)

「耕畜連携を柱とした循環型農業の実施による青森県農業の活性化」

2009年11月7日 弘前・十和田ジョイントフォーラム (弘前大学地域共同センター)

「地域活性化のための資源循環、食の安全、環境保全の取り組み」

2010年3月17日 弘前・十和田・八戸フォーラム（八戸工業大学）

「つながる津軽・つなげる想い—地域と行政の隙間をうめる—」

2010年3月27日 津軽地域活性化シンポジウム（弘前大学）

●大学院地域社会研究科行事

2010年度下北地域調査

2010年8月31日～9月2日 川内川集落調査・下北ミーティング

●学位論文

<学位論文公開審査会>

2010年2月6日(土)10:00～ 総合教育等 404講義室

「リンゴ搾汁残渣の新規用途開発に関する研究」

高橋 匡（6期生 地域産業研究講座）

# 弘前大学大学院地域社会研究科年報 投稿要領

平成20年9月制定

本年報は弘前大学大学院地域社会研究科によって発行される学術雑誌である。地域社会に関する研究成果を内外の研究者から広く募集し、その成果を掲載発表することにより、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## 1. 発行時期

年1回発行する(12月刊行予定)。

## 2. 投稿締切

投稿は随時とするが、当該年度内の本年報に掲載を希望する論文等の投稿締切日については年度初めの原稿募集案内に明記している。

## 3. カテゴリー

提出原稿は「論文」「研究ノート」「その他」という、三つのカテゴリーのいずれかを明示して提出する。

## 4. 提出物

○CDまたはUSB

○ハードコピー(本研究科院生および外部投稿者は3部、本研究科修了者、研究科教員および編集委員会が依頼した執筆者は1部)。

※原稿は図表等のスペースを含めて日本語の場合は32,000字以内(A4用紙1枚につき1,600字、計20頁)とする。ただし要旨の字数は含まない。

※論文及び研究ノートの場合、いずれも英文300wordsの要旨・キーワード(4項目まで)と日本語800字の要旨・キーワード(4項目まで)を含むこと。「その他」の場合は英文タイトルのみとし、投稿者の希望により英文300wordsの要旨と日本語800字の要旨を付すこともできる。

※原稿には投稿者の所属、肩書および連絡先(住所、電話・FAX番号、メールアドレス)を付記し、氏名にはフリガナとローマ字表記を添えること。

## 5. 査読

本研究科院生および外部投稿者により提出された原稿は、2名のレフェリーによる査読を経て、編集委員会において採用の可否を決定する。

## 6. 校正

校正は原則として著者が行い、3校までとする。

## 7. 原稿

原稿は採用の可否にかかわらず返却しない。また掲載された論文等の抜刷りは50部まで無料である。

## 8. Web上の公開に関する手続き

本年度に掲載される論文及び研究ノートはPDFファイルの形で、地域社会研究科のWeb上に公開する。ただし、著者の承諾が得られた論文及び研究ノートは、全内容を公開し、部分的に承諾が得られなかった論文及び研究ノートは、承諾を得られなかった箇所を除いて公開する。Web上に公開された論文及び研究ノートの著作権は、地域社会研究科に帰属する。

また、公開に伴いガード等が必要とされる事項については、編集委員会が対応・処理する。投稿者または投稿者の代表者は、投稿にあたって、「論文及び研究ノートのWeb公開に関する承諾書」(弘前大学大学院地域社会研究科、平成17年10月26日承認)に、署名・捺印し、意思表示を行うものとする。

## 9. 原稿の提出先・連絡先

〒036-8560 弘前大学文京町1番地 学務部教務課教務企画グループ

電話：0172-39-3960(直通) E-mail：jm3960@cc.hirosaki-u.ac.jp

## I. 全般的留意点

1. 原則としてワードプロセッサを使用して作成した原稿を提出する。
2. 原稿は横書きと縦書きの両方も可とする。

## II. 本文

1. 本文が始まる前にタイトル、氏名、要旨、キーワードの順に和文とその英訳を挿入する。タイトルは内容に即して平明・簡潔にする。

2. 項目の区分について

横書きでは

- (1) I, II, III, …… [節]
- (2) 1, 2, 3, …… [項]

縦書きでは

- (1) 一, 二, 三, …… [節]
- (2) (一), (二), (三), …… [項]

3. 数字について

横書きでは原則としてアラビア数字を使う。ただし、本文中ではコンマを用いず、万以上の数字には万、億、兆などを用いる。概数の場合は、十数人、数十年などとする。

[例] 23億500万円 1万2000人 第2次5カ年計画 表1 0～5歳

縦書きでは原則として漢数字を使う。 [例] 二十三億五百万円

4. 年は西暦を使用する。特別の暦法による暦を使用する場合には西暦年を [ ] で付記する。

5. ワードプロ印刷設定にあたっては、行間を十分あける。大文字・小文字、数字、アルファベットの違いを明確にする。とくに [一] と [-] の違いに留意すること。

## III. 文献の引用および注

1. 文献の引用および注は、横書きでは原則として本文中の該当箇所の右肩に片括弧付きの番号で表示する。[例] 三内丸山遺跡<sup>5)</sup>は、……である<sup>6)</sup>。

縦書きでは原則として本文中の該当箇所の右に両括弧付きの番号で表示する。[例] 藩。

2. 出典または注は、本文末尾に一括して番号順に記載する。その際、雑誌の場合は、著者名、論文等の題名、掲載雑誌名、巻・号、頁、発行年を、また単行本の場合は著者名、書名、出版社名、頁、発行年を記載することを原則とする。[例] 福島真人「内面とカージャワ神秘主義と伝統的政治モデル」『民族学研究』52(4)(3月)pp.330-350、1988年。



3. 前出の文献を再び引用する場合は前掲、続けて同じ文献を引用する場合は同上で表記する。

[例] 前掲「内面とカージャワ神秘主義と伝統的政治モデル」 pp.351。

同上書(論文)、pp.352。

#### IV. 図表、写真等

1. 1図、1表、1写真ごとに本文とは別に原稿用紙1枚ずつにまとめる。図、表の番号はそれぞれ、図1、表1のように通し番号とし、写真は図として扱う。図の場合にはその下に、表の場合にはその上に、番号とともに見出しを入れる。必ず単位、出所を明記する。

[例]

表1 2006年産日本りんごの主な輸出先およびその数量

単位：トン

台湾	香港	タイ	中国	アメリカ	インドネシア	ロシア
22,123	352	205	197	60	44	36

(注)台湾、香港から中国大陸への再輸出分は考慮していない。

(出所)財務省「日本貿易統計」2007年5月。

2. 横書き、縦書きともに、図・表等は縮尺を明示して、文中に挿入する場所を指定する。ただし、カラーページに関しては論文末に一括して掲載して、負担を軽減する。